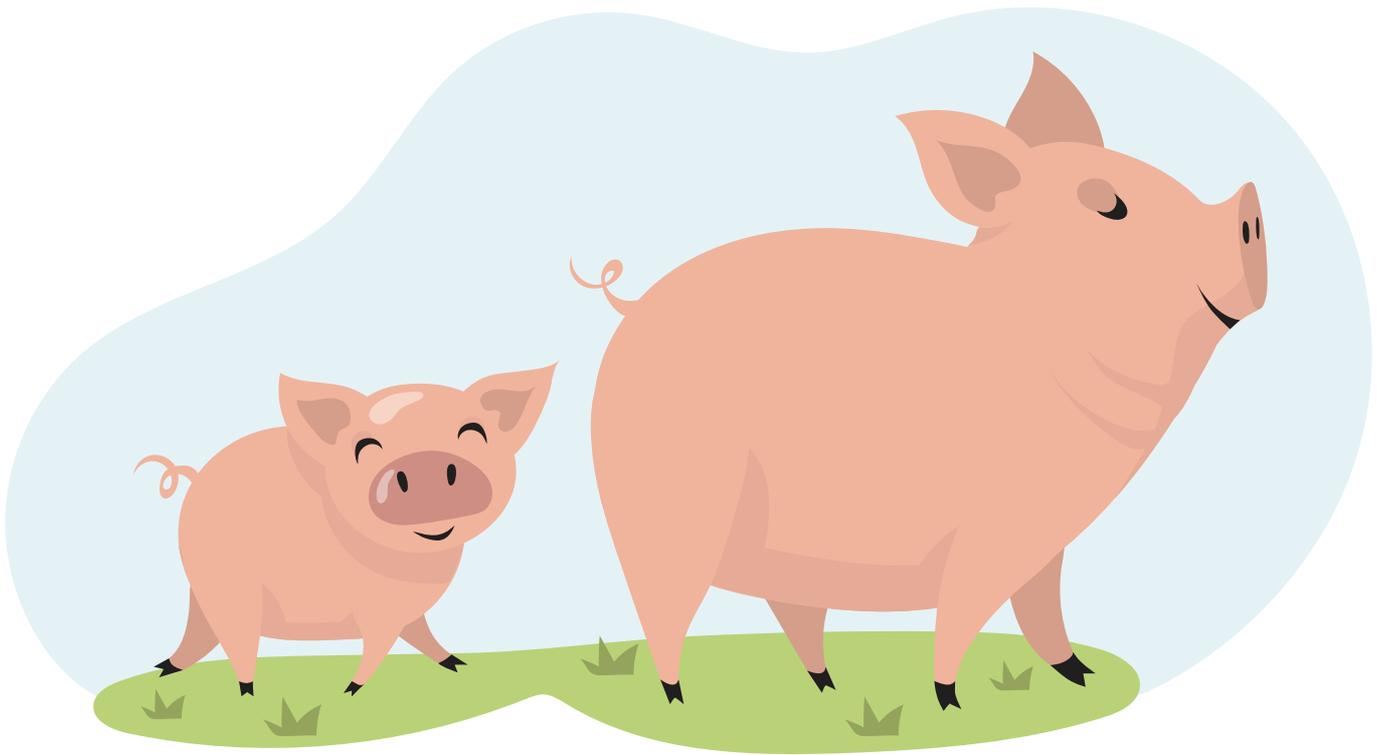


動物用医薬品

胆汁酸製剤

# ウルソ<sup>®</sup>V注射液 1000



ケトージス

肝機能減退症に

bah 物産アニマルヘルス

## 効能・効果

豚：ケトーシス、肝機能減退症

## 休薬期間

豚：7日

## ウルソの成分

ウルソ®V注射液1000の有効成分ウルソデオキシコール酸は、胆汁酸の一種で、家畜の各種肝機能障害の治療剤として合成され、製剤化されました。

## ウルソデオキシコール酸の薬理作用

1. 利胆作用
2. 肝血流量増加作用
3. 抗脂肪肝作用
4. 肝細胞保護作用
5. 肝グリコーゲン蓄積作用
6. 解毒亢進作用
7. 胃液・膵液分泌促進作用
8. リパーゼ活性促進作用
9. コレステロールの腸管吸収抑制作用
10. ビタミンB1およびB2の腸管吸収促進作用

### こんな時に

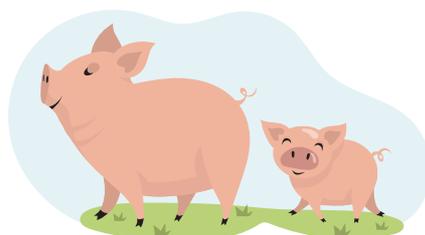
## 母豚の分娩時のストレスによる肝機能減退症に

母豚の肝機能が減退すると・・・

- 食欲不振
- 免疫機能の低下
- 泌乳量・乳質の低下
- 繁殖機能の低下・・・

母豚の栄養・健康状態に、  
ひいては子豚の健康状態に影響します

● 繁殖機能の低下・・・ 離乳後の肝機能減退症は、初回発情を遅らせます



## 母豚への投与プログラム

母豚 150~200kgとした場合、  
1頭あたり、本剤を1回 15~20mL 投与

-7日

分娩舎導入時

15~20mL

0日

分娩直後

15~20mL

15日

離乳前

15~20mL

# 豚への「ウルソ®V注射液1000」投与による 繁殖成績の改善

全国的にPRRS(豚繁殖・呼吸障害症候群)、PMWS(離乳後多臓器消耗性症候群)、PRDC(豚の呼吸器複合病)、サーコウイルス、APP(アクチノバチルス)、肺炎、大腸菌症、グレーサー病、サルモネラ症、ローソニア、TGE(豚伝染性胃腸炎)さらにはスス病など様々な病気が発生しており、出荷頭数の減少が顕在化しています。養豚の生産性を向上させるためには、このような疾病を防除するとともに、母豚の年間出産頭数を上げることが重要となります。

H畜産において分娩後の母豚のストレスによる肝機能減退の改善を目的に、胆汁酸製剤である「ウルソ®V注射液1000」を投与し、その後の繁殖成績についての若干の知見が得られましたのでご報告します。

【社内資料】

1. 試験期間 2005年10月19日～2006年5月26日

2. 供試頭数 母豚36頭

3. 試験場所 H畜産



4. 目的及び投与方法 肝機能減退の改善を目的として、ウルソ®V注射液1000(有効成分:ウルソデオキシコール酸10mg/mL)を分娩日と離乳日の2回、製剤としてそれぞれ20mLを臀部2箇所に10mLずつ筋肉内投与した。

5. 調査項目 今回の分娩時の繁殖成績(総産子数、分娩間隔、離乳子数、分娩から最終種付けまでの日数)を前回の分娩時(無投薬)の繁殖成績と比較した。

## 6. 結果

	無投薬	2回投与
産子数(頭/母豚)	12.25±1.93	12.94±2.32
分娩間隔(日)	146.03±11.69	145.61±17.85
離乳子数(頭)	9.50±1.90	10.14±1.48
分娩から最終種付けまで(日)	30.78±18.25	25.44±10.14
初回発情受胎率(%)	86.1	94.4

(平均±SD)

7. まとめ 離乳後、初回の発情で受胎した母豚は前回種付け時で86.1%、今回種付け時で94.4%と8.3ポイント上昇した。その結果、分娩から最終種付けまでの日数が、前回分娩時より5.3日短縮することができた。

このことにより、「ウルソ®V注射液1000」を分娩後に投与することは、**母豚に肝機能減退の改善をもたらす、繁殖成績に好影響を及ぼす可能性が示唆された。**

# Drug Information

(使用前に必ず添付文書を読み、注意事項を守って使用してください。)

## 動物用医薬品

貯法 室温保存

### 胆汁酸製剤

# ウルソ<sup>®</sup>V注射液 1000

®登録商標

#### 【成分及び分量】

品名	ウルソV注射液1000
有効成分	日本薬局方 ウルソデオキシコール酸
含量	本品100mL中 1000mg

#### 【効能又は効果】

豚: ケトージス、肝機能減退症

#### 【用法及び用量】

豚: 体重1kg当たりウルソデオキシコール酸として1mgを3～5日間筋肉内に注射する。  
なお、症状に応じて適宜増減する。

#### 【使用上の注意】

(基本的事項)

##### 1. 守らなければならないこと

(一般的注意)

- 本剤は、効能・効果において定められた目的のみ使用すること。
- 本剤は、定められた用法・用量を厳守すること。
- 本剤投与後、下記の期間は食用に供する目的で出荷等を行わないこと。  
豚: 7日
- 本剤は獣医師の指導の下で使用すること。

(取扱い及び廃棄のための注意)

- 小児の手の届かないところに保管すること。
- 本剤は室温で保管し、直射日光及び高温を避けること。
- 使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。

##### 2. 使用に際して気を付けること

(使用者に対する注意)

- 誤って人に注射した場合は、直ちに医師の診察を受けること。

(豚に関する注意)

- 連続して用いる場合は、注射部位を変えて使用すること。

(取扱い上の注意)

- 泡が立ちやすいので、使用前に容器を振らないこと。
- 本剤は、通常、室温保管であるが、5°C以下の環境で保管しても結晶は析出されない。ただし、分割投与等により開封後の本剤を5°C以下で保管した場合、結晶が析出することがある。この場合は、60°C程度の温湯でバイアルを温めて、結晶が溶解してから使用すること。なお、薬効等には何ら、影響はない。
- 注射器具は滅菌又は煮沸消毒されたものを使用すること。薬剤により消毒をした器具又は他の薬剤に使用した器具は使用しないこと(ガス滅菌によるものを除く)。なお、乾熱、高压蒸気滅菌又は煮沸消毒等を行った場合は、室温まで冷えたものを使用すること。
- 本剤を分割投与する場合は、速やかに使用すること。
- 使用前にゴム栓部位をエタノール綿等で清拭すること。

#### 【包装】

ウルソV注射液1000 100mL バイアル

●詳細については添付文書を参照してください。

製造販売元

物産アニマルヘルス株式会社

大阪市中央区本町2-5-7